資料５－１

料金改定率（案）について

令和８年８月２０日　第３回経営審議会資料

● 水道料金改定（案）

第2回資料５より

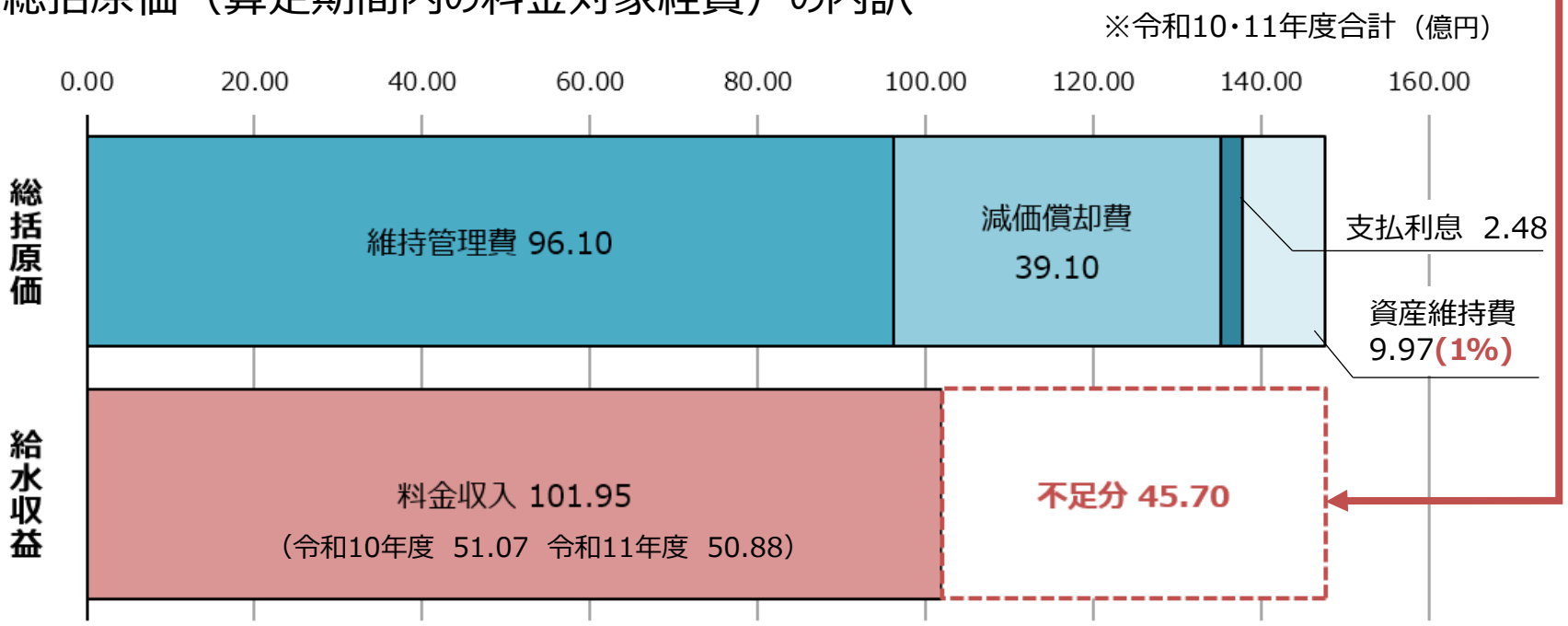
項目	内　容
改定時期	令和９年１０月１日
算定期間	令和１０年度～令和１１年度
改定率	４５％

1．平均改定率の検討

◆【案１】 平均改定率45%

45%の改定が必要
※令和9年10月改定

●総括原価（算定期間内の料金対象経費）の内訳



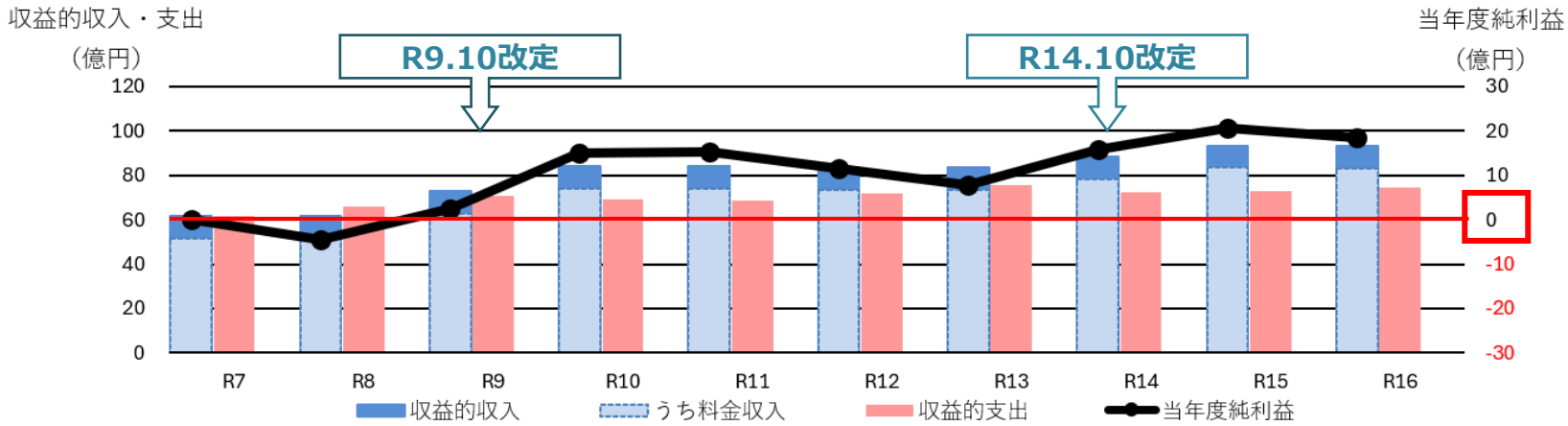
（億円）

総括原価	維持管理費					減価償却費	支払利息	資産維持費	総括原価合計
	人件費	受水費	修繕費	その他	小計				
令和10年度	4.98	24.18	4.55	14.70	48.41	19.53	1.16	4.85	73.95
令和11年度	5.00	24.08	3.98	14.63	47.69	19.57	1.32	5.12	73.70
計	9.88	48.26	8.53	29.33	96.10	39.10	2.48	9.97	147.65

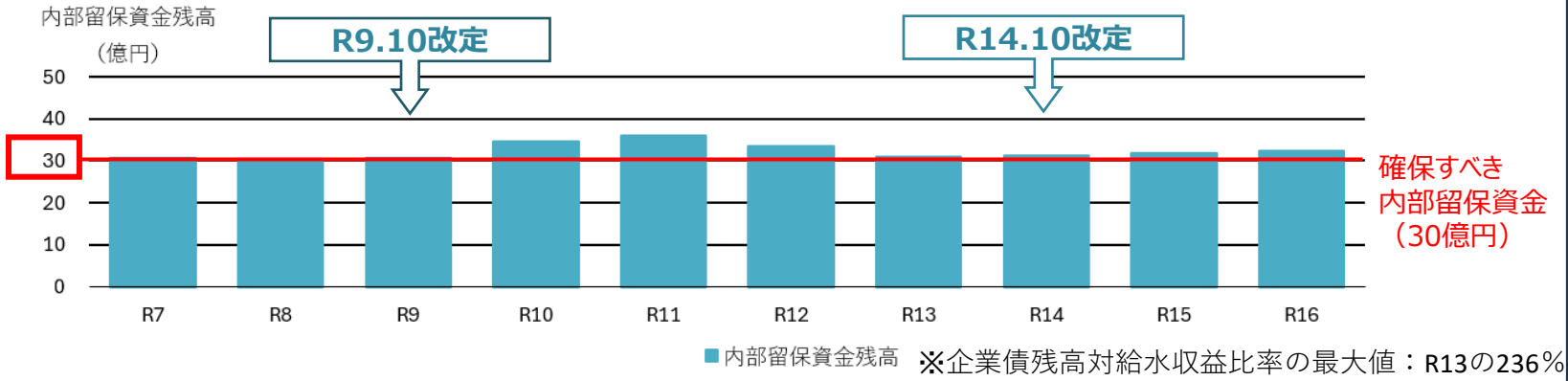
1．平均改定率の検討

【案１】改定率45%財政シミュレーション（次期改定目安：令和14年度　15%）

◎収益的収支▶次期改定まで黒字の見込み



◎内部留保資金▶次期改定まで目標水準を維持します



※企業債残高対給水収益比率の最大値：R13の236％

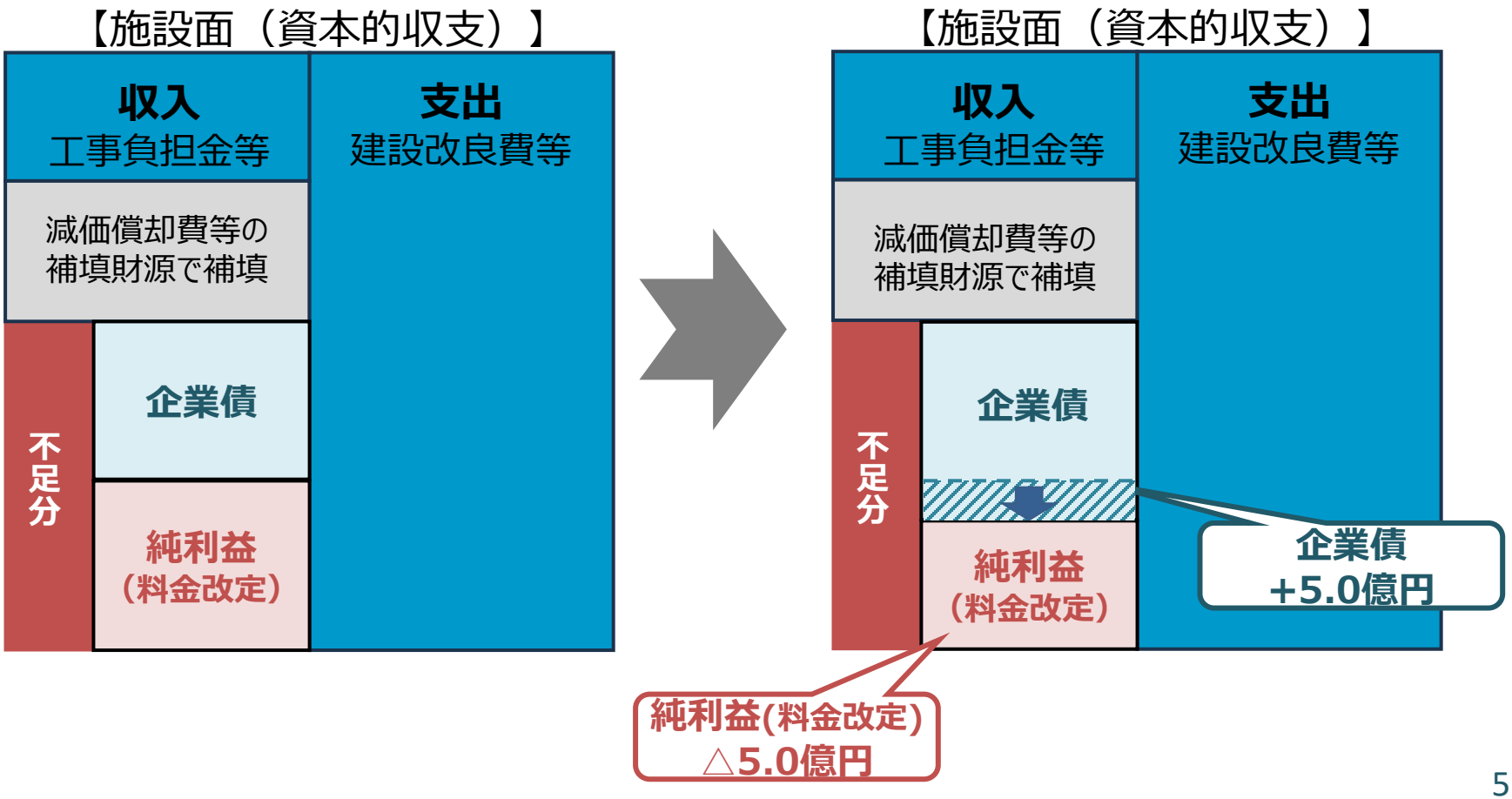
※企業債残高対給水収益比率：年間の料金収入に対して、企業債残高がどれくらいの規模にあるかを示す指標です。
経営戦略では、目標値を250％以内としています。（経営戦略P72）

１．平均改定率の検討

◆【案２】平均改定率３９.９％

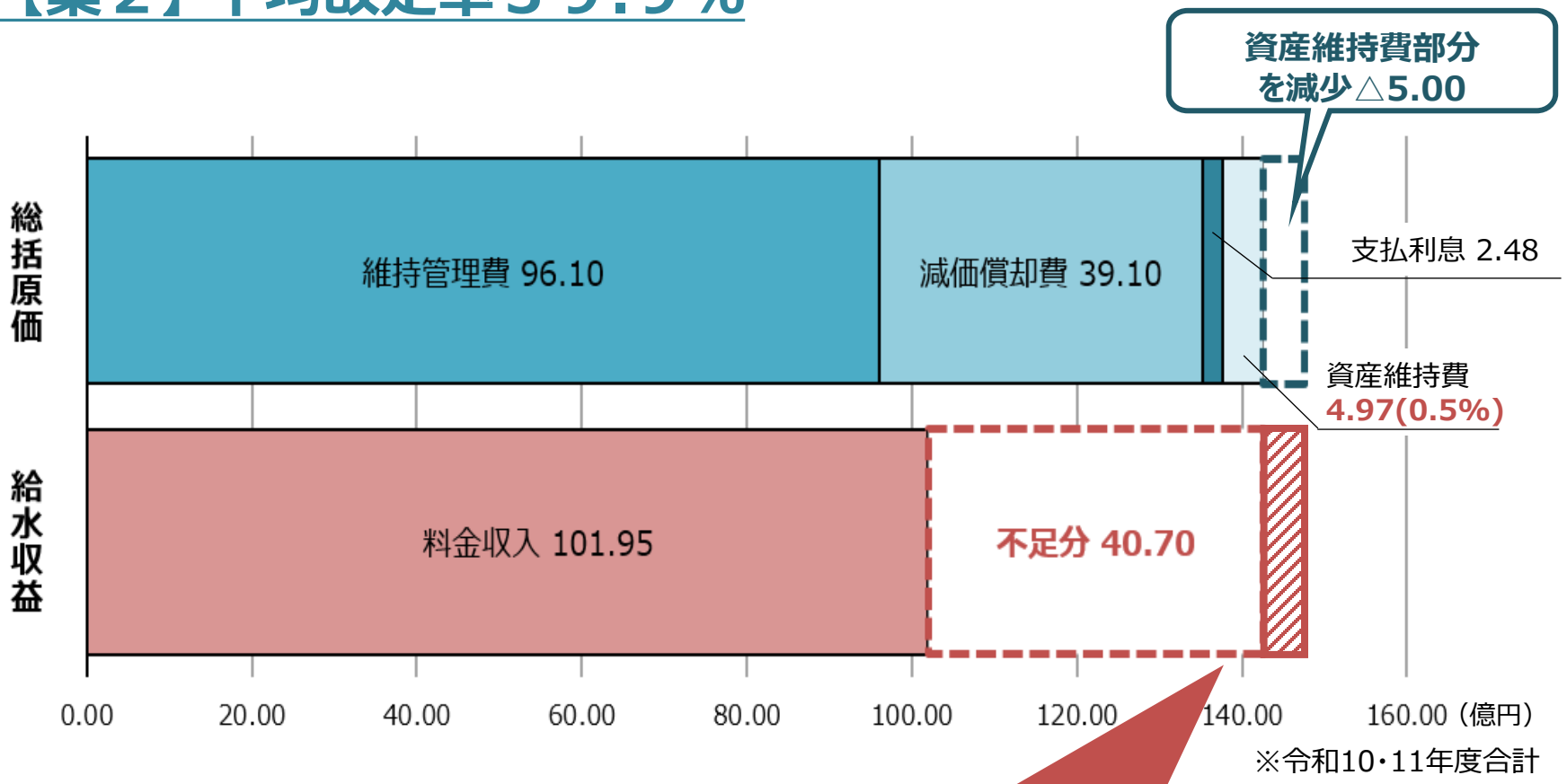
企業債借入額を増加させ、平均改定率を抑制します。

➡ **企業債借入額を５億円（R10年度3億円、R11年度2億円）増加させることで、改定率を抑制できるものです。**



1．平均改定率の検討

◆【案２】平均改定率３９.９％

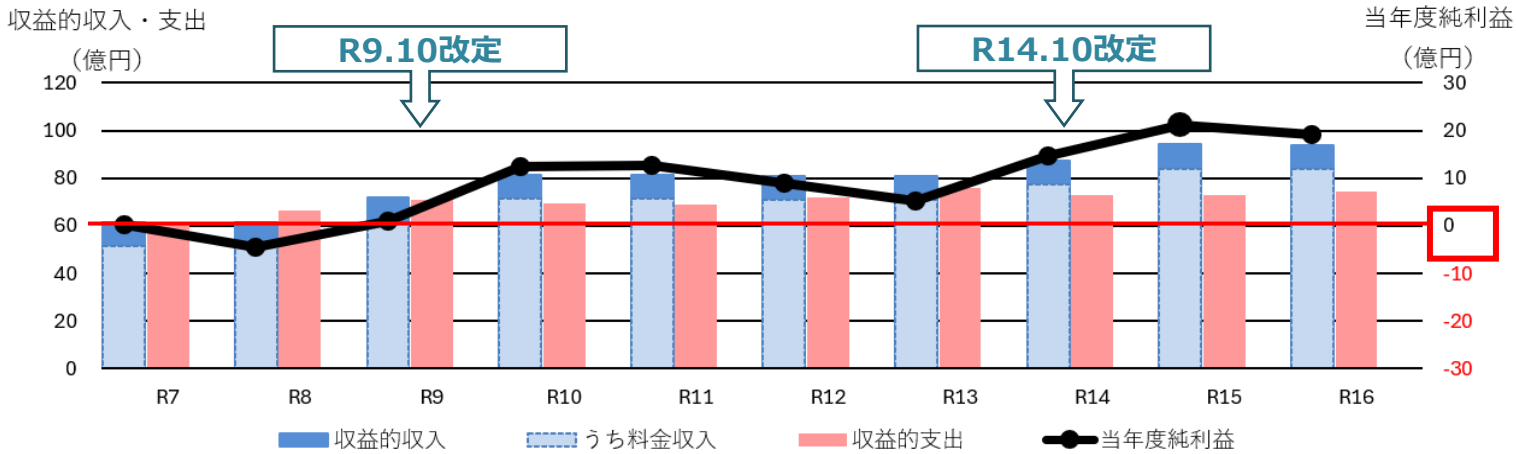


【案２】
改定率**39.9%**（△5.1%）
※令和9年10月改定

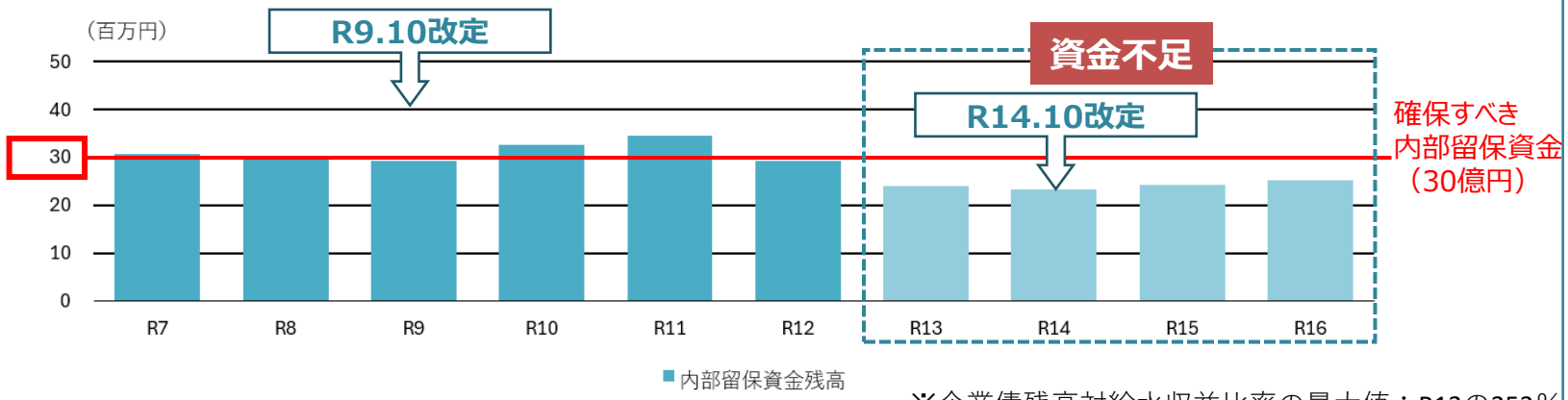
1．平均改定率の検討

【案２】改定率39.9%財政シミュレーション①（次期改定目安：令和14年度　20.1%）

◎収益的収支▶次期改定まで黒字の見込み



△内部留保資金▶令和13年度以降不足が見込まれます

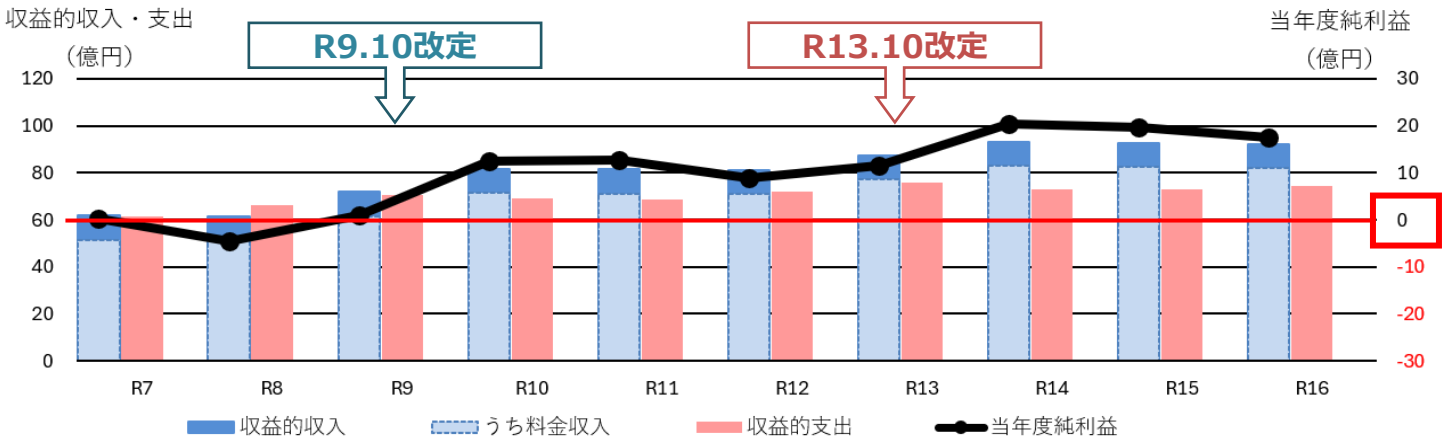


※企業債残高対給水収益比率の最大値：R13の252％

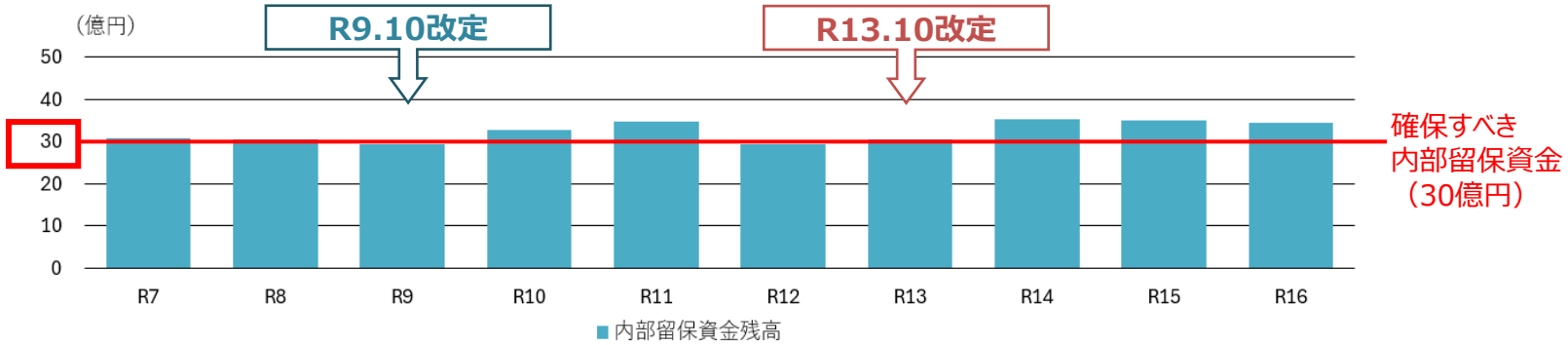
1．平均改定率の検討

【案２】改定率39.9%財政シミュレーション②（次期改定目安：令和13年度　18.0%）

◎収益的収支▶次期改定まで黒字の見込み



◎内部留保資金▶改定時期を1年早めることで目標水準を維持します

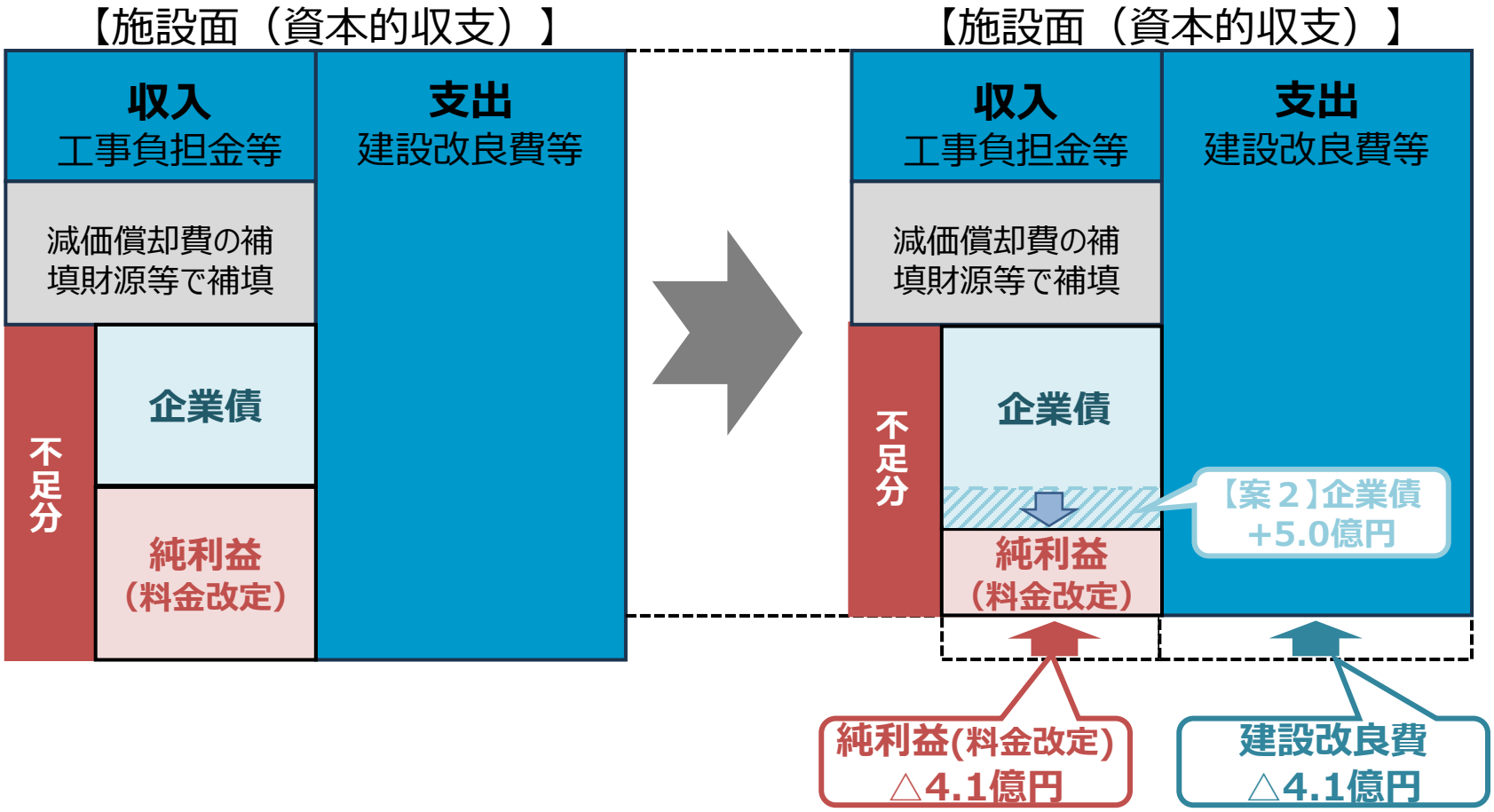


※企業債残高対給水収益比率の最大値：R12の232％

１．平均改定率の検討

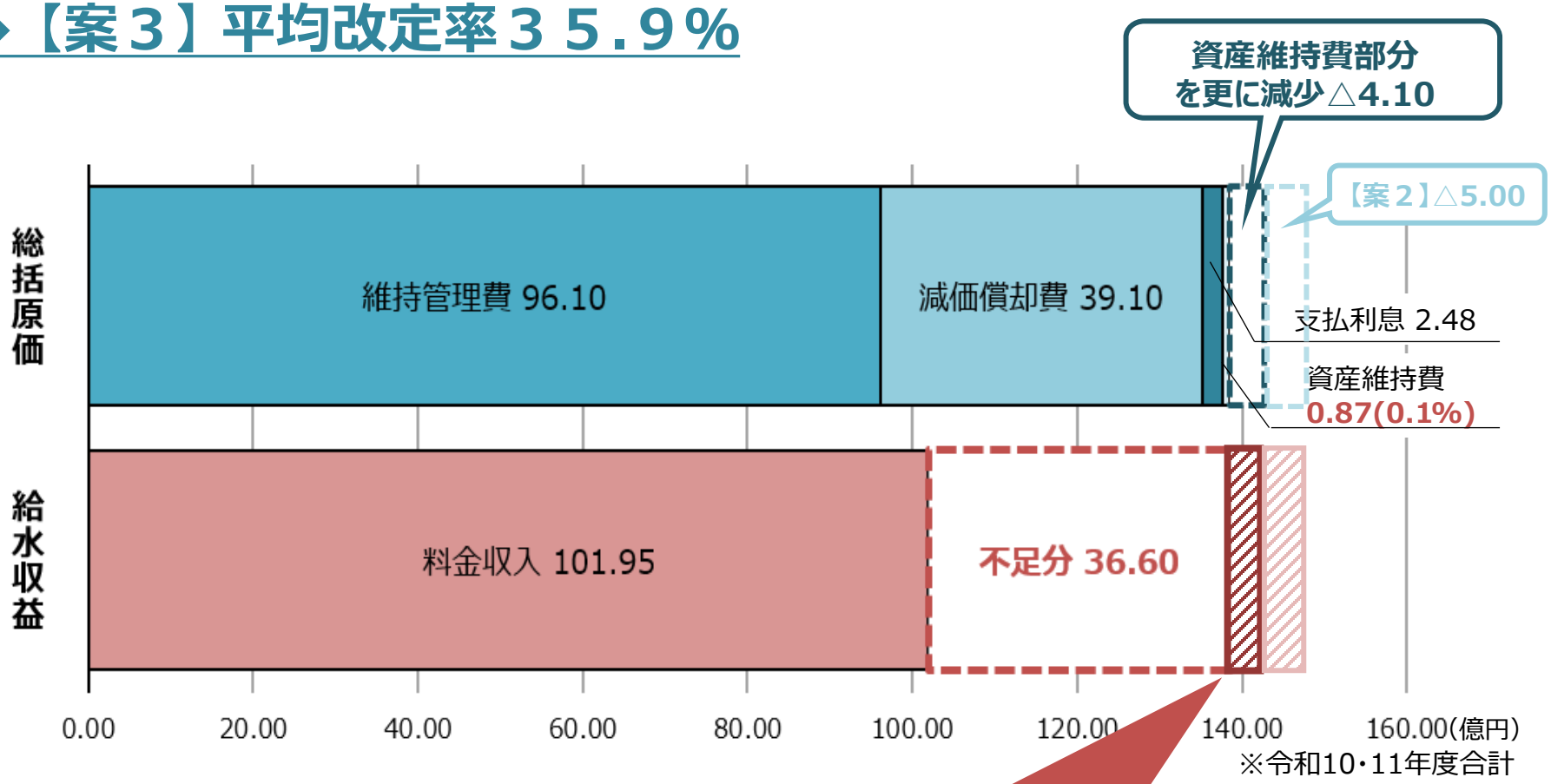
◆【案３】平均改定率３５.９％

企業債借入額を５億円増加させる【案２】に加え、管路の更新について、人工衛星等の情報を基に建設改良費の減額を行えば、さらなる改定率の抑制ができます。（別紙資料5-2参照）



1．平均改定率の検討

◆【案３】平均改定率３５.９％

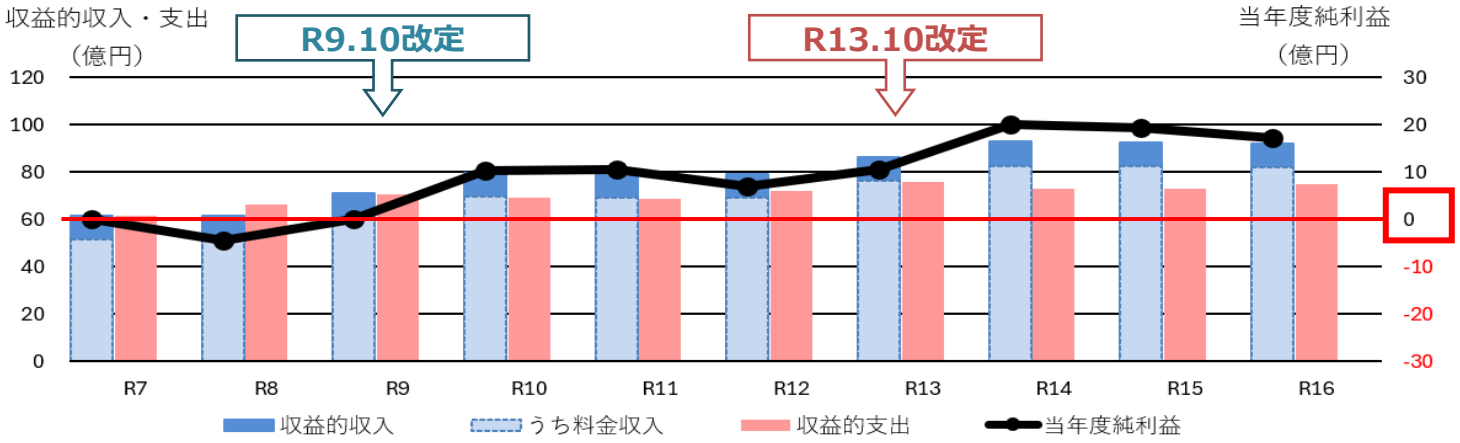


【案３】
改定率**35.9%**（△4.0%）
※令和9年10月改定

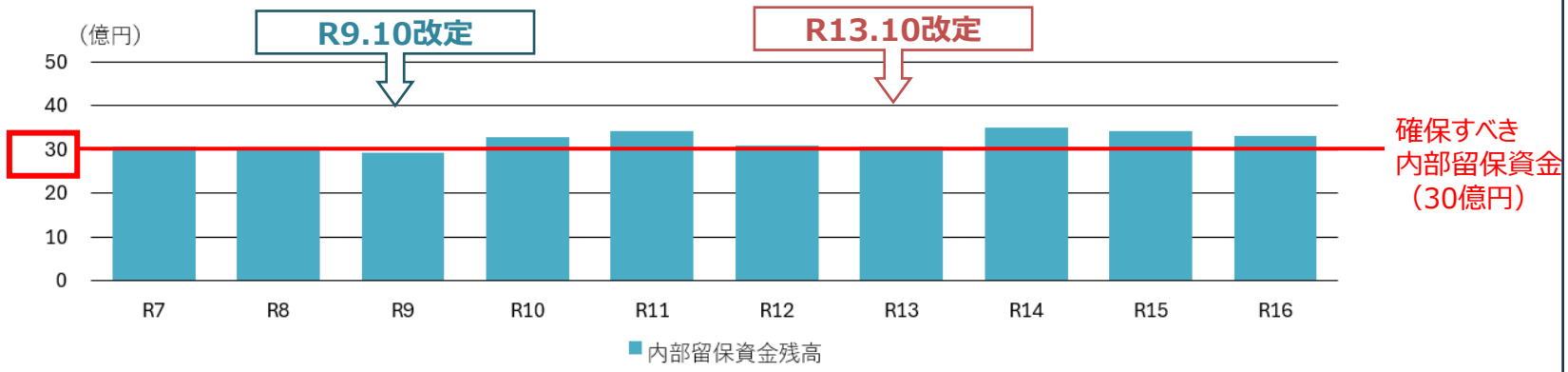
1．平均改定率の検討

【案3】改定率35.9%財政シミュレーション（次期改定目安：令和13年度　21.0%）

◎収益的収支▶次期改定まで黒字の見込み



◎内部留保資金▶改定時期を1年早めることで目標水準を維持します



※企業債残高対給水収益比率の最大値：R12の246％

１．平均改定率の検討

◆　平均改定率（案）まとめ

	令和９年10月 平均改定率	改定率の根拠	改定率引き下げ に伴うリスク	次期改定 （目安）※
案１	**４５.０％**	経営戦略と同率の案	－	令和14年10月 15.0%
案２	**３９.９％**	企業債借入を５億円増加	・企業債残高の増加 ・将来世代への負担の先送り	令和13年10月 18.0%
案３	**３５.９％**	・企業債借入を５億円増加 ・建設改良費を4.1億円減少	・企業債残高の増加 ・将来世代への負担の先送り ・管路更新の見送り	令和13年10月 21.0%

※次期改定については、あくまでもシミュレーションにおける目安であり、確定したものではありません。実際に料金改定を検討する際には、改めて審議会にお諮りいたします。